上佐一心会自主防災会

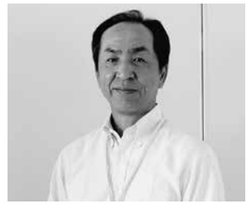
「まずは、地域の自主防災力を高めて、自分や家族の命、隣近所の人の命を守ることが大切です。そして、自主防災活動が、活力ある地域づくりにもつながっていけばいいなと考えています」

そう語るのは、高宮町上佐地域の地域振興会である上佐一心会会長であり、上佐一心会自主防災組織の会長の清水盤さん（62）。自然災害が少ないとされる上佐地域ですが、一心会では防災力を高めるために、自主防災活動の活性化に取り組んでいます。

「直近の大きな自然災害は昭和47年にあった豪雨災害で、そのときは川の氾濫や家屋倒壊などの大きな被害がありました。また、市の洪水・土砂災害ハザードマップを見ると、上佐地域にも危険な箇所が多くあります。今年の8月に広島市で集中豪雨による甚大な被害があったように、近年では雨が局地的に降ることが多々あり、いつ災害が起きるかわかりません。住民一人ひとりが危機意識を持っておくことが大切です」と清水さんは言います。

上佐地域では、平成23年に自主防災組織を結成。今後、防災活動に力を入れていくため、今年度から県の「自主防災組織活性化プロジェクト」事業を取り入れています。「自主防災組織活性化プロジェクト」とは、県が養成した「ひろしま防災リーダー」等で編成したプロジェクトチームが、自主防災組織に対し、約1年間に渡り実践的な助言や指導を行い、活動の活性化を図るというものです。上佐一心会がこのプロジェクトに応募し、今年度、モデル地域として、活動されています。

「実際に災害が起きたときに、組織が動けるような体制づくりをしておかなければなりません。例えば、大雨が降り避難しなければならなくなったときに、誰がどこの高齢者の方を助けるか、ということを決めておく必要があります」



上佐一心会自主防災　会長
清水（しみず）　盤（いわお）　さん

住民の皆さんの防災意識を高めるため、今年度は7月に防災講演会を開催し、今後は一心会を構成する5つの地域の代表者が、防災リーダーを含めて防災について話し合う座談会や、避難訓練も行いたいと考えているそうです。

「日々生活をする中ではどうしても防災について考えることが少なくなってしまうので、防災について考える機会を設けていきたいと思っています。地域で命を守るためには、この地域の特性や、救急救命の技術を地域で共有することが大切です。そして、災害が起きたときはどう行動したらよいか、自分たちで考えることが重要だと思います」

また、清水さんは、防災の取り組みが一心会の皆さんのより一層の助け合いを促し、人と人とのつながりの強い地域づくりにつながることを目指しています。「防災活動に取り組むことで、地域の皆さんとコミュニケーションが取れ、地域の人の顔がよりわかるようになります。そうすることが活気のあるコミュニティ作りをより促すのではないでしょうか」

地域で防災意識を高め、いざというときのために地域一体で行動できるよう、活動に取り組んでいる上佐一心会。命を守るための取り組みが、地域の絆を深め、強い絆が地域の防災力を高めます。

1. 7月27日、防災講演会で、ひろしま防災リーダーの柳迫さんが自主防災活動の取り組み方などを講演。**2.** 同じく防災講演会で、白地図へ危険箇所の書き込みを行った。**3.** 9月15日、敬老会で、災害など私たちの生活の中にあるあらゆる危険への備えをまとめた「歌＋健康体操」の「歩一歩（ほいっぽ）たいそう」をして、皆で楽しく防災知識を学んだ。

地域で命を守る

活発な自主防災活動を市が応援します！

今回紹介した2つの自主防災組織のように、災害に備えて様々な活動をしている組織もあれば、これから活発に動こうとしている組織もあります。

市では、自主防災訓練実施時の補助金交付（年1回）や、要望に対して訓練指導の人的支援を行うなど、自主防災組織の活動を支援しています。このような活動を積み上げ、地域のために結成した組織の活動を、より具体化していくことも大切です。

自主防災組織で安全・安心の地域づくり

もちろん、消防、行政も最大限の対応を行う準備をしています。しかしながら、過去の経験から、広い範囲で同時に起きた災害に対しては、十分に対応することができないことがわかっています。避難所の開設、食糧や水の準備、負傷者の搬送は可能ですが、避難所までの移動をお手伝いすることは難しいのが現状です。

災害被害を最小限に食い止めるには、地域の積極的な取り組みが欠かせません。災害の規模が大きくなればなるほど、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができなくなります。市が提供している危険箇所や避難所の情報が、地域の皆さんの命を守るのに本当に有効かどうかを判断できるのも、そこに住む皆さんです。地域を実際に見回って、危険箇所や避難ルートの安全を確認し、情報を常に新しくしておくこと。隣近所に住む一人暮らしや自力での避難が難しい方を一人ひとり把握し、有事の際の安全確認が容易にできるようにしておくこと。避難所が遠い人でも安全に地域内で避難できるように、家の近くのより小さな単位で避難場所を決めておくこと。災害が起きる前に備えておくべきことで、その地域の土地や人をよく知っている人にしかできないことはたくさんあります。

また、災害が起きた時に、自分や家族の身を守るために、自分自身が心がけておかなければならないこともあります。それに加えて、皆さんが協力して、地域の安全な暮らしを作り上げておくことが、危険が迫ってきたときの安心感や精神的な余裕につながります。

地域の一人ひとりが日頃から災害に対しての心構えを持ち、ひとりでは乗り切れない場面を助け合っていける。自主防災組織の活動を通してそんな地域を作りあげていくことが、命を守るために必要な取り組みとして期待されています。

【自主防災組織についてのお問い合わせ】
市役所総務部危機管理課
☎425625

安芸高田市の防災情報もお太助フォンでチェック！

台風や豪雨などにより、これまでに経験したことのない雨が降る状況が起きています。

テレビやラジオ、インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォンなど）からも気象情報を得ることができますが、安芸高田市の防災情報は、お太助フォンから知ることができます。

気象予報により、大雨や暴風などが予想される場合は、事前に被災を防ぐ情報を発信します。また、警報が発令された際、それに伴って市が警戒体制をとった際、避難所を開設した際、さらに避難をお願いする際など、その都度、お太助フォンにより情報を発信します。

日々、お太助フォンからの情報を確認されていることと思いますが、大雨や暴風などが予想される場合は、特にお太助フォンをご確認ください。